

3 研究のまとめ

本研究では、小・中・高等学校において、児童生徒の実態や発達の段階に応じた「強み」に着目した交流活動の効果的な進め方を探ることにより、児童生徒が互いに自他のよさを認め合う学級集団づくりを目指しました。児童生徒のよさを児童生徒が持つ「強み」(ストレンクス)と捉え、「強み」に着目した交流活動を取り入れた授業実践を行いました。児童生徒が自分や友達の「強み」を知ったり互いの「強み」を伝え合い認め合ったりする授業モデルを作成し、「強み」に着目した交流活動の進め方を探りました。以下に、研究の成果と課題、今後の展望について述べます。

(1) 研究の成果

- 小・中・高等学校全ての校種において、児童生徒の実態と発達の段階を踏まえ、児童生徒が自分や友達の「強み」を知ったり互いに自他の「強み」を伝え合い認め合ったりする授業モデルと授業資料等を作成することができました。また、授業モデルにおいて全ての時間に「ウェビングマップ(イメージマップ)」の手法を取り入れ、「強み」に着目した交流活動を提案することができました。
- 児童生徒が持つ「強み」に着目した交流活動を効果的に進めるための「あなたのよかところSAGAシート(自己肯定感チェックシート)」を作成することができました。このシートを活用することで、自己肯定感に関する児童生徒の実態を把握し、授業実践前後における児童生徒に対する理解を深めることができました。
- 小・中・高等学校全ての校種において、授業実践を行い、その取組を紹介することで、児童生徒が持つ「強み」に着目した交流活動を取り入れた授業モデルの効果的な進め方を提案することができました。



(2) 課題と今後の展望

- 「がばいシート」を基にした検証の視点Ⅱ(「学級の雰囲気」「友達との関係」)の検証結果において、想定していた数値の伸びが見られなかったところがありました。これは、検証授業を実践した対象学級における人間関係のトラブル等が少なからず影響していることも考えられます。しかし、授業後の児童生徒の「振り返りシート」には、児童生徒が自己理解や他者理解を深め互いに好意や感謝の気持ちを持ったり、今後、学級生活や友達との関係を良くしていきたいと考えたりしている記述が多く見られました。このような児童生徒の気持ちや意欲を、児童生徒が「学級の雰囲気」や「友達との関係」が良くなったと実感することができるような状態につなげていくためには、児童生徒が持つ「強み」に着目した交流活動を取り入れた授業を行うだけでなく、学校生活の様々な場面で、自分や友達の「強み」を知ったり互いに自他の「強み」を伝え合い認め合ったりする活動を継続的に取り入れていく必要があると考えます。
- 「ウェビングマップ(イメージマップ)」は書く作業が多くなるため、書くことへの苦手意識がある児童生徒への配慮や書く時間の確保等、課題が残りました。児童生徒が互いに自他のよさを認め合う人間関係づくりの支援の在り方として、今後は、児童生徒の実態や発達の段階に応じた「強み」に着目した交流活動の効果的な進め方を、平成30年度佐賀県教育センター「プロジェクト研究」において探るとともに、講座や学校支援等で紹介して活用の啓発を図りたいと考えます。